千葉・大慈恩寺遺跡

1　所在地　千葉県香取郡大栄町吉岡

2　調査期間　一九九一年（平3）一一月～一九九二年一月・七月～八月

3　発掘機関　㈶香取郡市文化財センター

4　調査担当者　黒沢哲郎

5　遺跡の種類　寺院跡

6　遺跡の年代　中世～近世

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

大慈恩寺は、利根川支流の大須賀川上流域にあり、南に開く標高二二m～二五mの狭隘な谷地に位置する。現在も成田山新勝寺の末寺として存続する古刹であり、室町時代初期に全国に置かれた安国寺利生塔の設置寺として知られている。叡尊の弟子である真源の名の刻まれた延慶三年（一三一〇）銘の梵鐘が残されていることや、寺の所蔵する古文書などから、鎌倉時代末の創建と考えられている。鎌倉時代から室町時代にかけて、横浜市の金沢称名寺を軸に展開した東関東地方の律宗系寺院の一つである。

（成　田）

今回の発掘調査は、寺域内に複数のトレンチを設定して行なった一連の確認調査で、二年次にわたって実施した。調査の結果、室町時代の複数の火災跡や、堂基壇の一部などが確認された。出土遺物の主要なものは、酒会壺などの優品の青磁を含む貿易陶磁器、瀬戸、常滑などの国産陶磁器、鍋、火鉢などの瓦質土器やかわらけなど中世・近世の焼物類、銅製鍋や瓔珞などの金属製品、硯、砥石などの石製品である。他に五輪塔や宝篋印塔の部品、種子（梵字・キリーク）の刻まれた板碑がある。

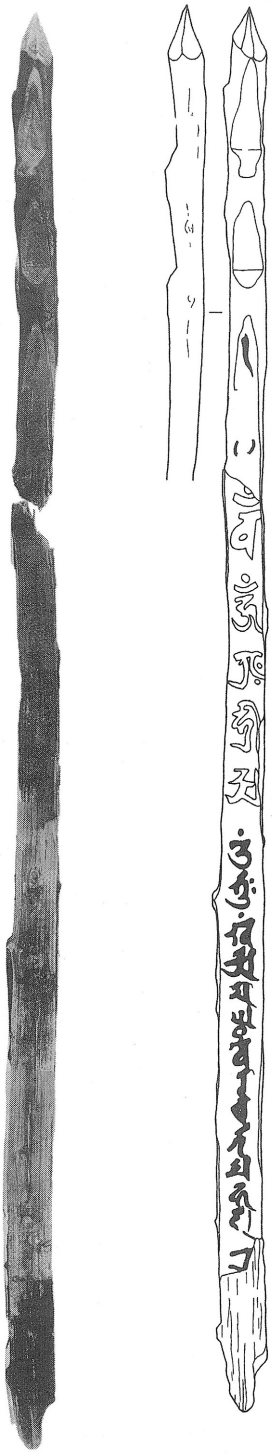
木簡は、本堂の西側際に南北方向に設定したトレンチの地表下約一m、藁くずを含む黒色腐植土中から出土した。共伴遺物はなく年代は特定できない。しかし、調査結果から、本堂付近は中世から近世にかけてかなり盛土されていることが判明しており、出土レベルから判断すれば、中世末以降に属する可能性が高い。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「□□（バン　ウン　タラーク　キリーク　アク　オン　ボク　ケン　アボ　ギャベイ）
＝（ルシャナ　マカボダラ）＝

(148)×5×5　061

樹皮を残した杉材の片側を削り、梵字を墨書する。上部は二段に削りを入れて頭部を尖らせている。下部は欠損する。内容は、金剛界五仏を表す種子、三帰呪・光明真言で、供養塔婆の一種と考えている。



9　関係文献

大栄町教育委員会『大慈恩寺遺跡』（一九九三年）
斎木勝「県内出土の木製塔婆」（㈶千葉県文化財センター『研究連絡誌』六二　二〇〇二年）

（黒沢哲郎）